

経営比較分析表（令和元年度決算）

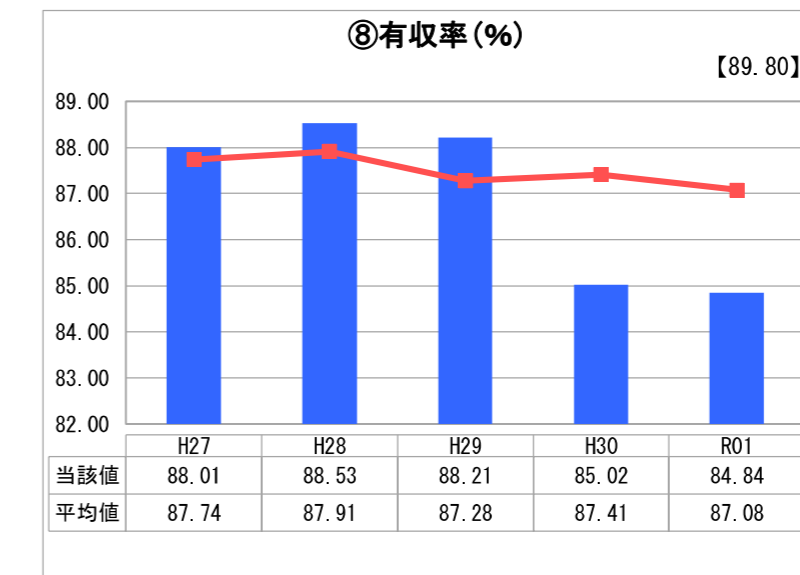
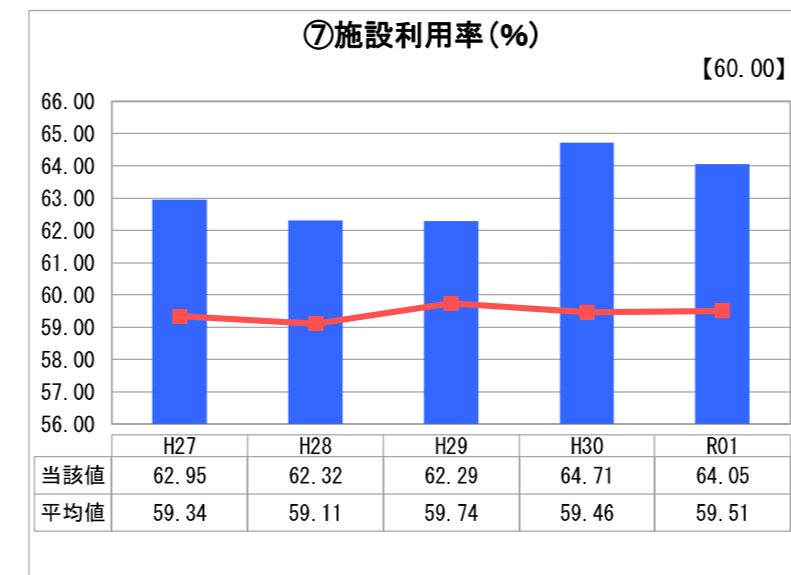
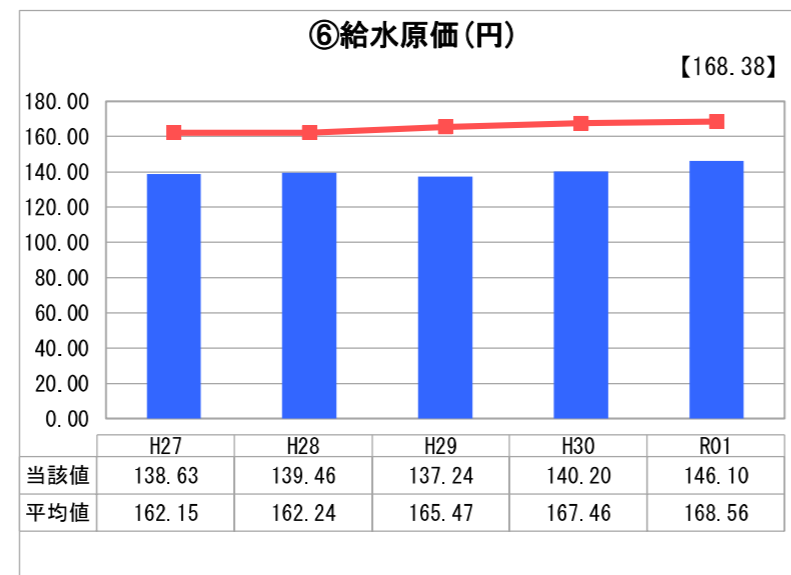
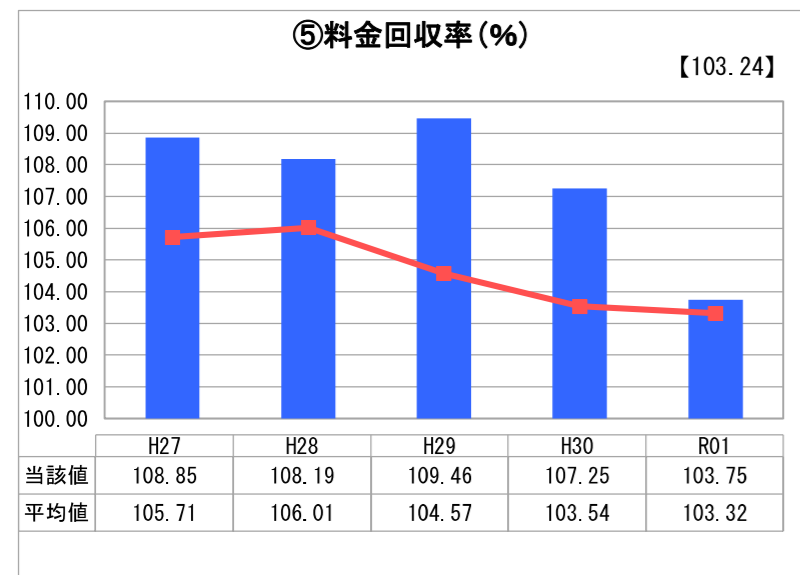
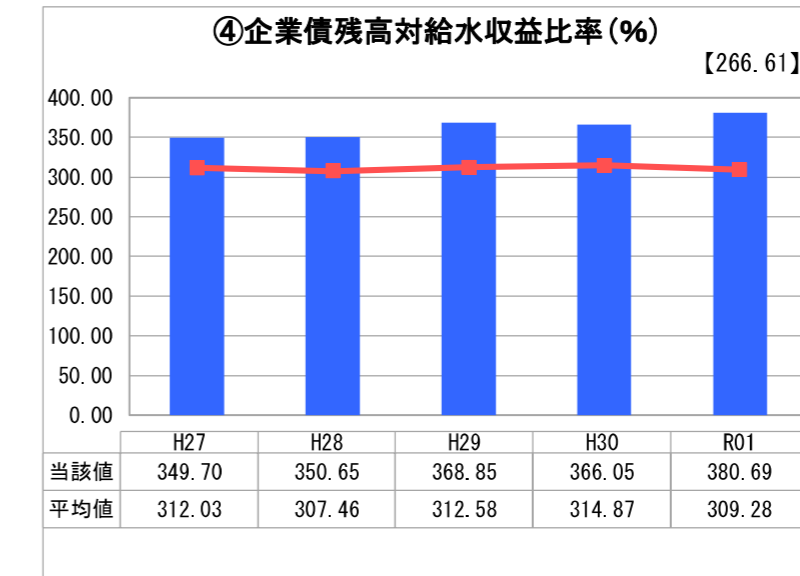
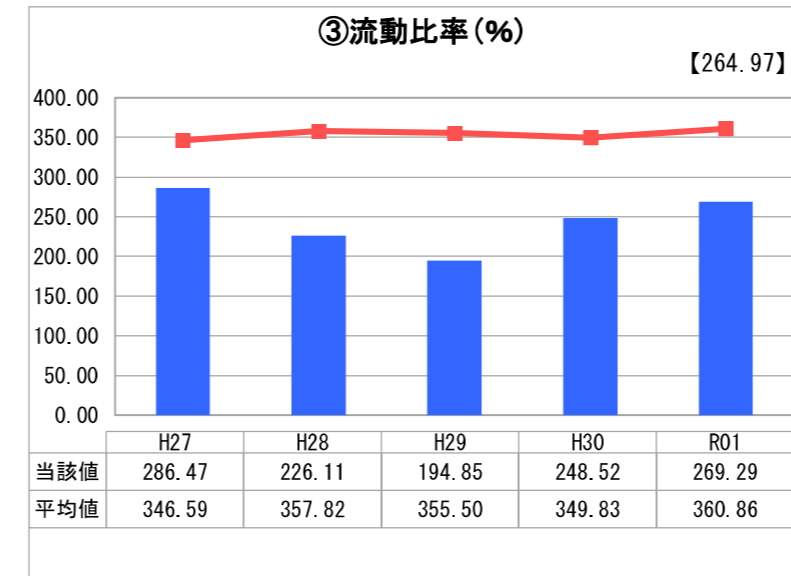
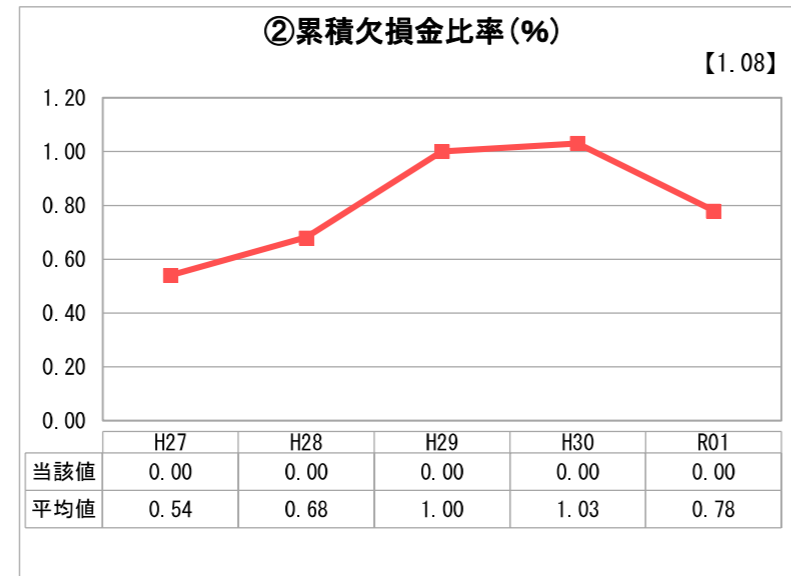
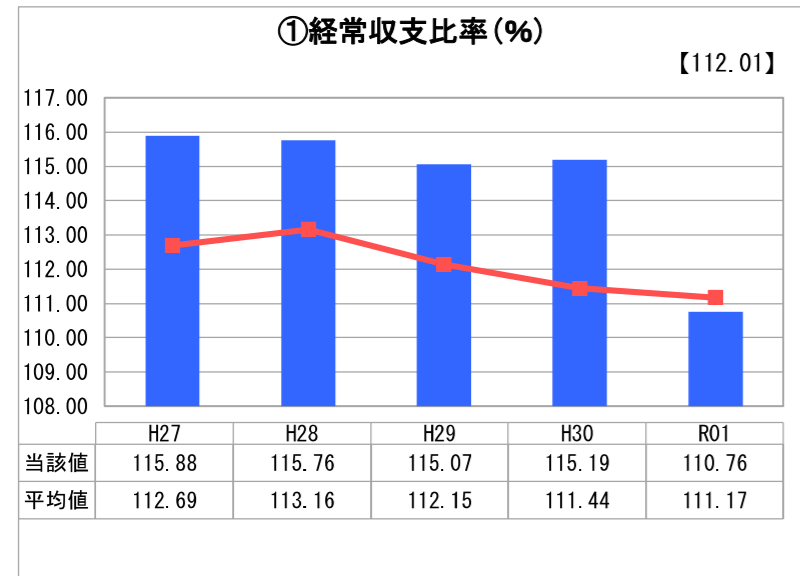
埼玉県 羽生市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	55.15	99.98	2,420	

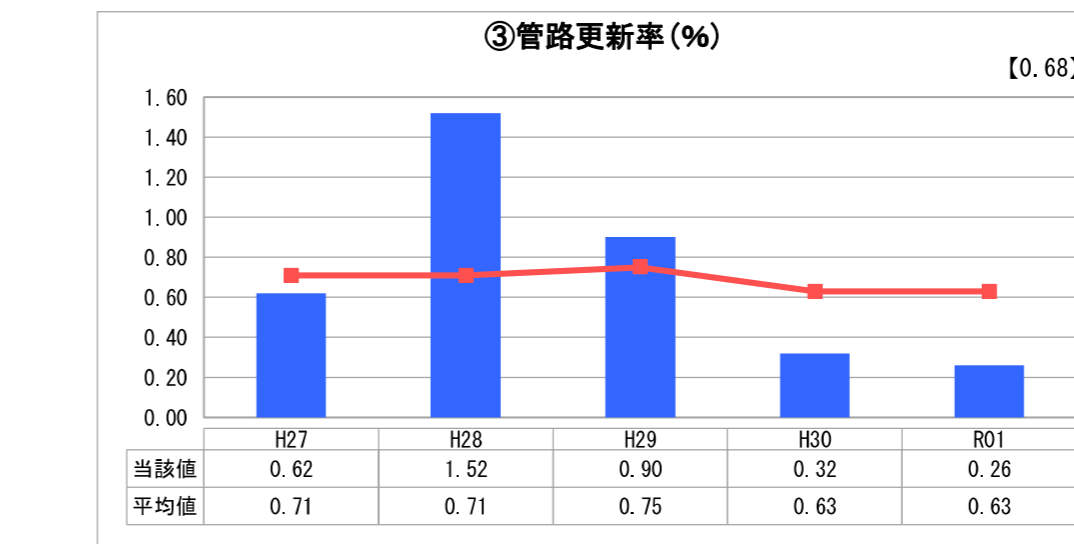
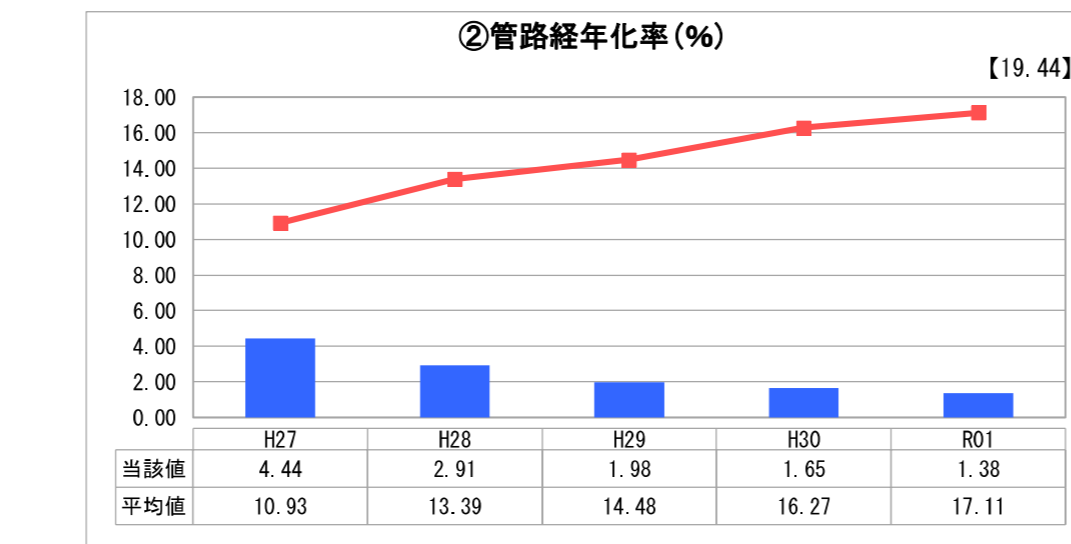
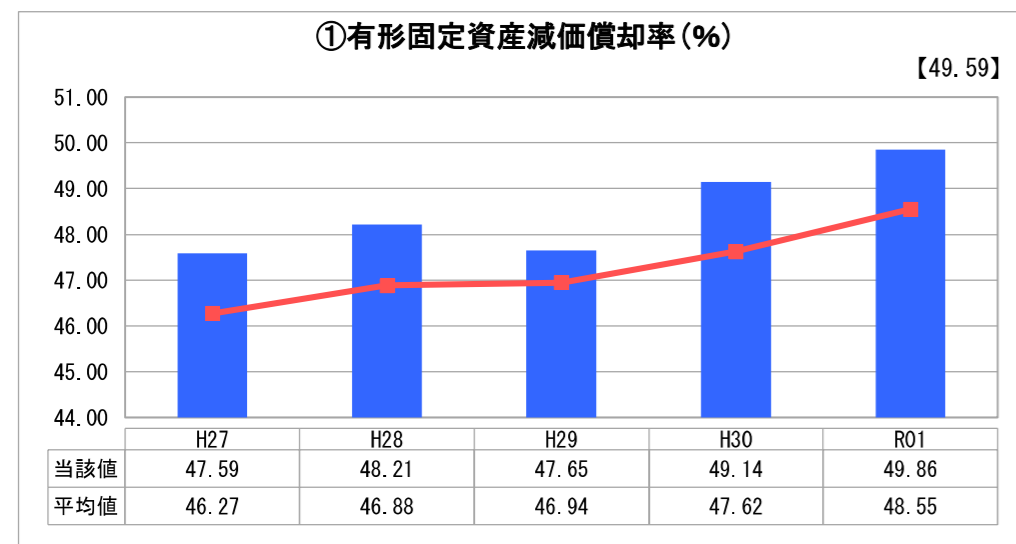
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
54,642	58.64	931.82
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
54,572	58.64	930.63

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
⇒ 指標が100%を上回っており、健全な経営が行われていますが、数値が低下していることから、費用削減や経営の合理化に努めていく必要があります。
- ② 累積欠損比率
⇒ 累積欠損はありません。
- ③ 流動比率
⇒ 指標が100%を上回っており、支払いに要する現金の確保が図られています。平成26年度より会計基準が見直され、借入資本金を負債に計上することになったために指標が大幅に下がりました。
- ④ 企業債残高対給水収益比率
⇒ ほぼ一定の比率で推移していますが、将来的負担の軽減を図るため、今後の企業債借入額の縮小に努める必要があります。
- ⑤ 料金回収率
⇒ 指標が100%を上回っており、給水に係る費用が給水収益で賄われています。
- ⑥ 給水原価
⇒ ほぼ一定の値で推移しており類似団体平均値を下回っていますが、施設の更新に伴う減価償却費が増加傾向にあるため、今後は上昇が見込まれます。
- ⑦ 施設利用率
⇒ 漏水等による配水量が多い傾向にあるため、施設利用率が昨年に引き続き高めの数値になっています。
- ⑧ 有収率
⇒ 近年、概ね88%程度の値で推移していましたが、昨年に引き続き漏水や区画整理事業区域内の水質維持のための排泥により低下しています。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率
⇒ 保有資産の耐用年数が近づいており、施設の老朽化が進んでいるため、計画的な施設の更新が必要となります。
- ② 管路経年化率
⇒ 類似比較団体より低い水準にあり、管路の更新を継続して行い、施設の維持管理に努めていく必要があります。
- ③ 管路更新率
⇒ 計画的に老朽管の更新事業を進めてきていますが、近年は老朽管更新対象地区が市街地や国県道になったために費用がかさみ、更新率が低下しています。

全体総括

経営状況的には、「経常収支比率」、「流動比率」及び「料金回収率」ともに100%を超えており、黒字経営による健全な経営を行っています。但し、施設については、老朽化が進んでいるため、経年化率等による優先順位に基づき、また、将来的な経営状況を鑑み、計画的に施設の更新を進めていく必要があります。

経営比較分析表（令和元年度決算）

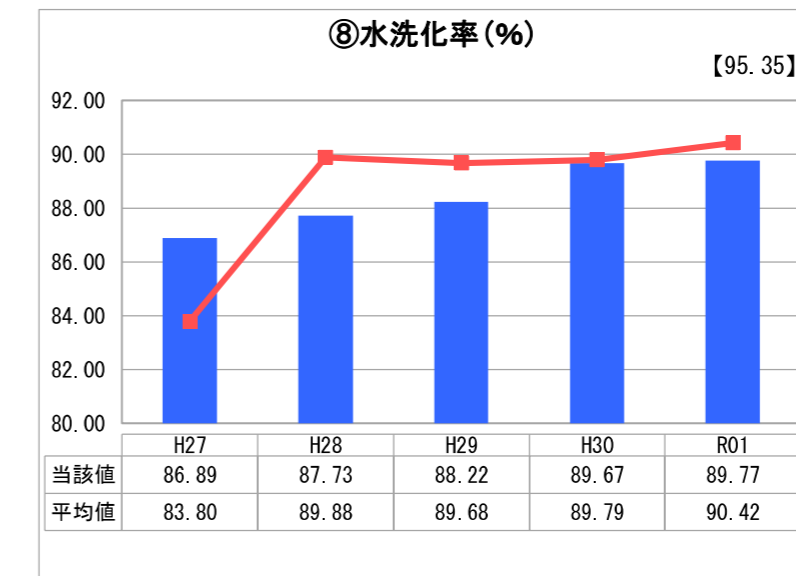
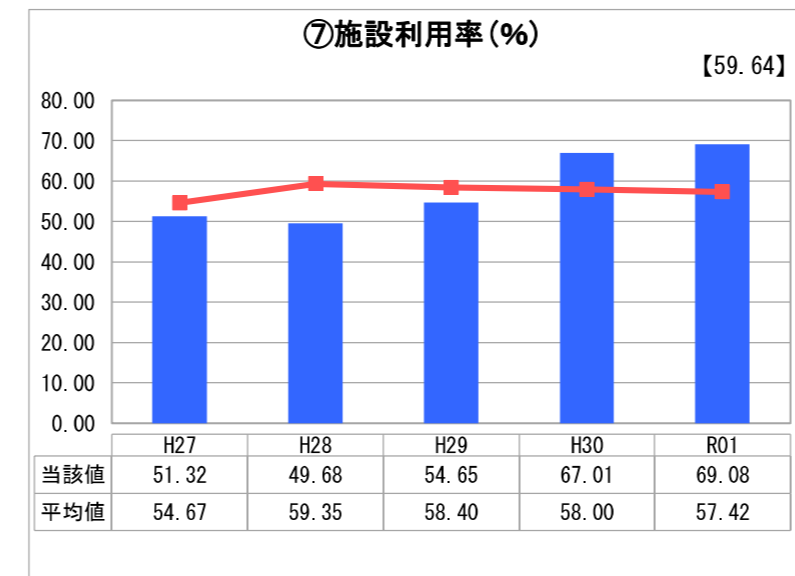
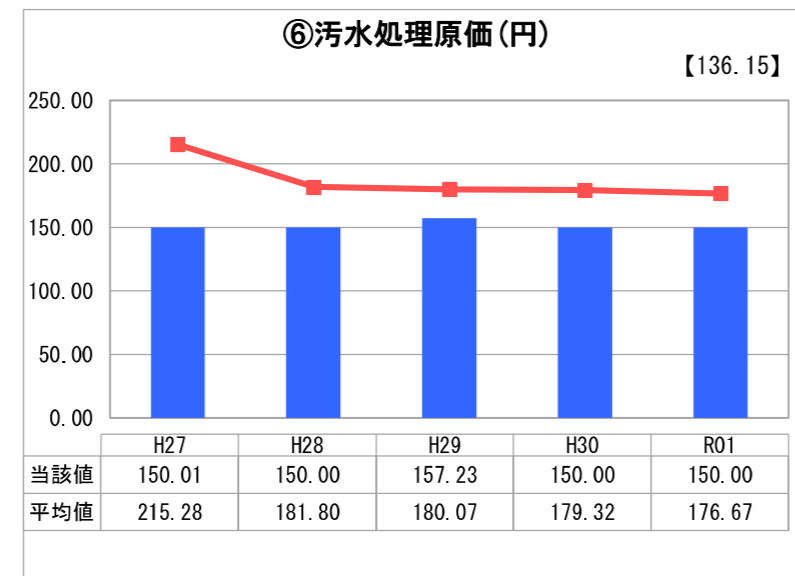
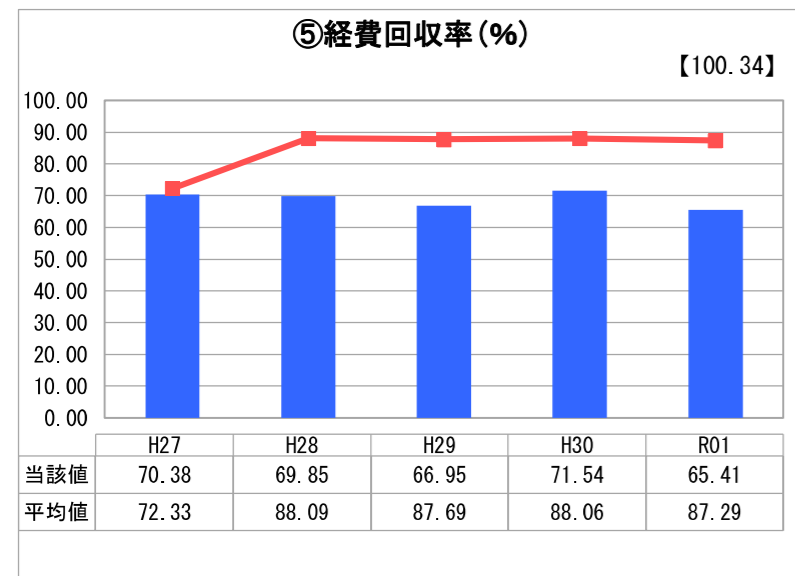
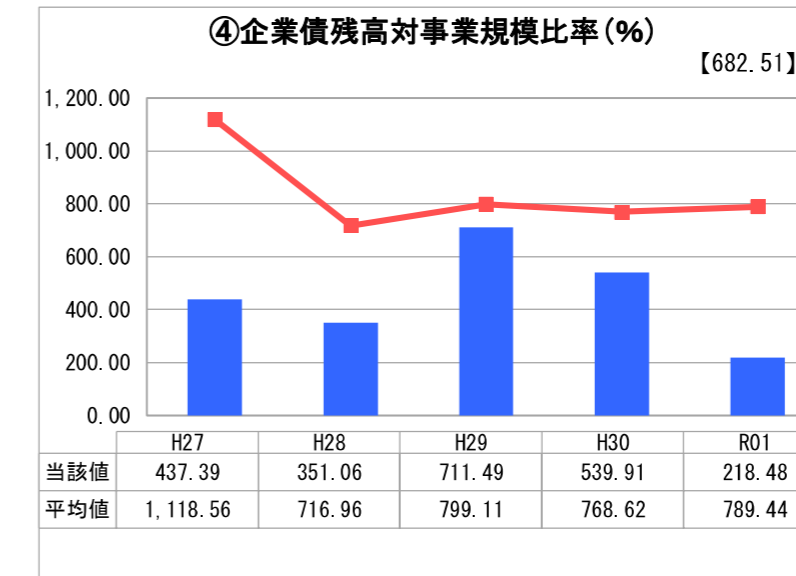
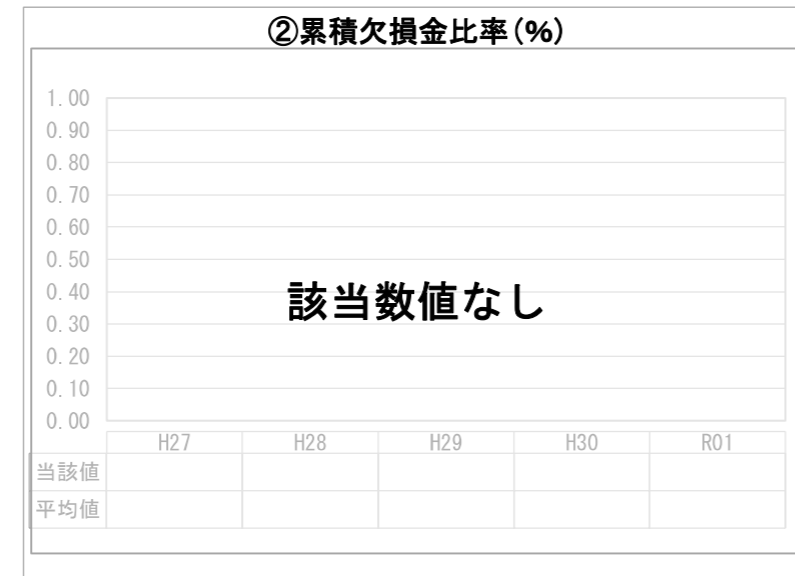
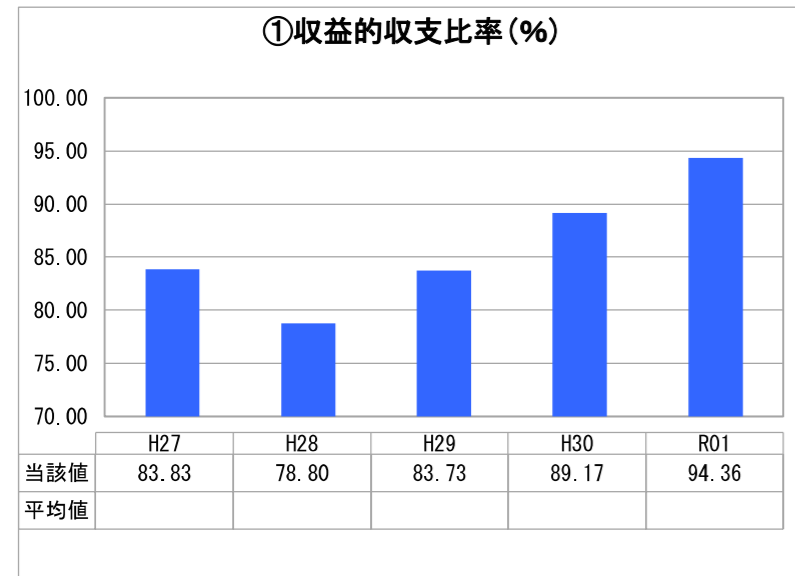
埼玉県 羽生市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	36.48	77.64	1,925

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
54,642	58.64	931.82
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
19,911	4.25	4,684.94

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【】 令和元年度全国平均	

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率 ⑤経費回収率
収益的収支比率・経費回収率ともに、100%を下回っています。下水道使用料で賄えておらず、適正な料金水準の改善に努めていきます。

④企業債残高対事業規模比率
令和元年度も類似団体の平均値より下回っております。前年度と比較し、残高は減少していますが、施設の改築更新等が続くため増加の傾向にあります。

⑦施設利用率
大口排水事業所の接続や区画整理事業地内の整備に伴う処理区域の拡大など平成28年度から毎年利用率が上がっています。

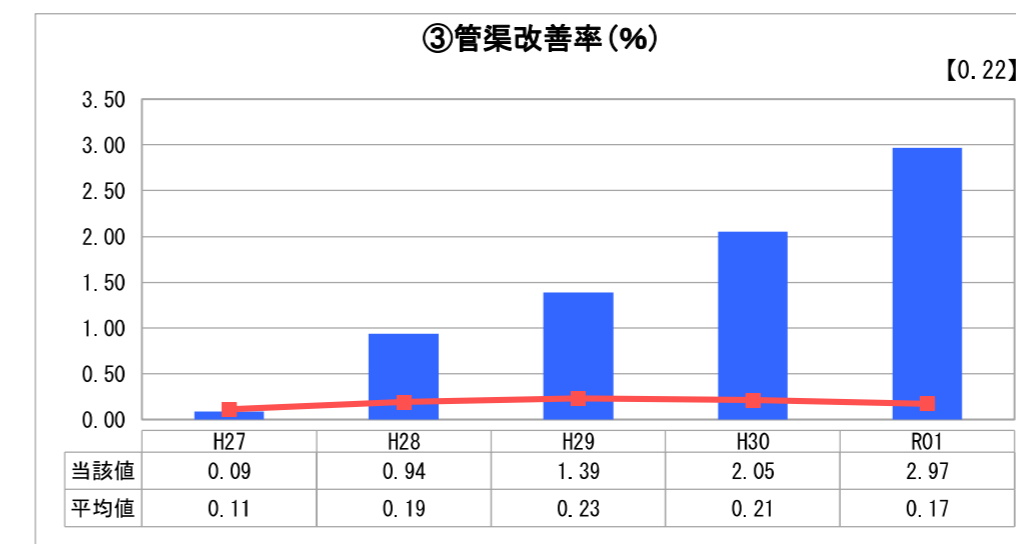
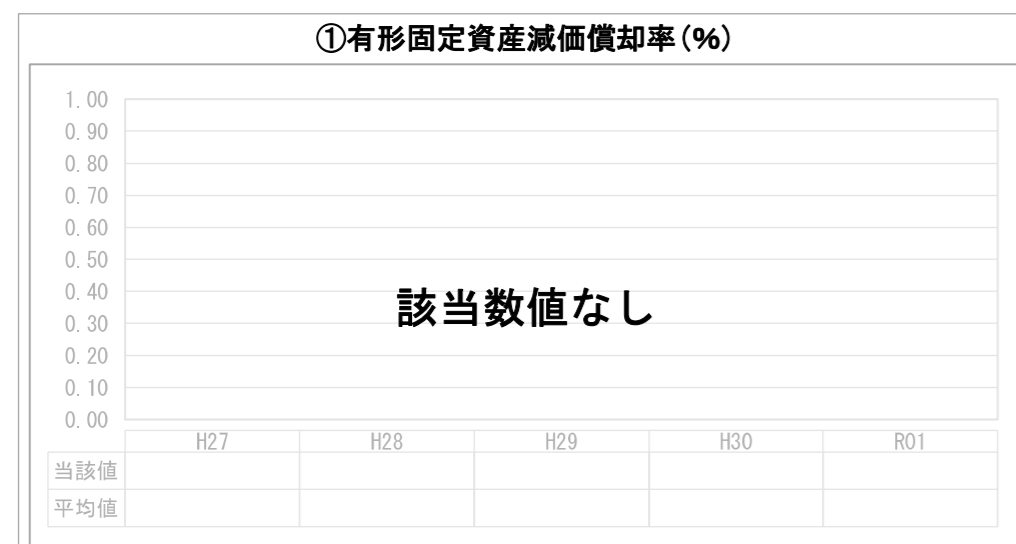
⑧水洗化率
区画整理事業地内の整備の進捗に伴い少ない値ではありますが、毎年水洗化率が上がっています。

2. 老朽化の状況について

既存の下水道管渠は、標準耐用年数を経過した管がまだありません。令和3年度からストックマネジメント計画に基づき、巡視、点検及び調査を行い、修繕及び改築を行ってまいります。

終末処理場や中継ポンプ場は、ストックマネジメント計画に基づき、老朽化したストックに対して健全度の低いものから改築・更新を行ってまいります。

2. 老朽化の状況



全体総括

経費回収率が適正值である100%より低く推移しており、下水道使用料で賄えておらず、令和2年度策定予定の経営戦略に基づき、適正な料金水準の改善に努めてまいります。

令和2年度より地方公営企業法の適用に伴い、より明確化される経営状況を的確に把握し、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上に取り組み、公営企業の基本原則である独立採算制の実現や経営の健全性・効率性の改善を図ってまいります。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。